

人口		世帯	
昭和40年(4月末)	昭和45年(4月末)	昭和40年(4月末)	昭和45年(4月末)
2,885人	2,359人	2,076人	1,106世帯
2,950人	2,356人	2,131人	1,187世帯
5,835人	4,715人	4,207人	1,274世帯
1,274世帯	1,187世帯	1,106世帯	

〔4月中届出分〕 転入した人 27人 転出した人 41人 (前月比19人減)

# 弘川

- およろこび 四人  
 中野 植木 和彦ちゃん  
 小 藪 滝本 順子ちゃん  
 下鹿野川 和氣 千夏ちゃん  
 〃 岩田 正己ちゃん  
 おくやみ 九人  
 京造 富永 荒市さん  
 月野尾 柴田運次郎(79才)  
 下敷水 寺尾 杉枝さん(79才)  
 小 藪 土居ツタ子さん(61才)  
 爪生谷 水野キヨノさん(70才)  
 森 兵頭 寅恵さん(73才)  
 協生 村上 正成さん(70才)  
 広常 谷田利三郎さん(77才)  
 町 川崎 清政さん(84才)

時間を大切にしよう。花を植えよう。(大切に)運動六月の目標

## 農業青年は考える

表1 アンケート回答者の属性

事項	年齢		性別		職業		学歴		就職のため1年以上経験ありなし	計
	18才~22才	23才~29才	男	女	農林	非農林	中卒、大卒	高卒、その他		
在住青年	4.5%	29.6%	74.0%	26.0%	21.4%	79.6%				100.0%
回答青年	5.3%	25.0%	76.2%	23.7%	60.5%	39.5%	30.3%	56.6%	54.7%	100.1%
	48.7%	21.0%					6.6%	2.6%	2.7%	76

註 大卒は短大卒も含む。

農林業に従事する青年は減少傾向にあり、そのうち、農林業への就職意向が低いという結果が、七六人の回答(回収率五六・七%)を得てその属性は表1の通りです。

### 農林業意識と問題点

調査は中学卒業から三〇才までの、(学生は除外)、在住青年とし、農林青年四五人、非農林青年八九人計一三四人(在住青年の六四%)を抽出、回答を依頼しました。その結果、七六人の回答(回収率五六・七%)を得てその属性は表1の通りです。

農林業に従事する青年は減少傾向にあり、そのうち、農林業への就職意向が低いという結果が、七六人の回答(回収率五六・七%)を得てその属性は表1の通りです。

### 農林業の情熱あつく 生きる方向を模索

経済の大きな成長は、弘川町に過疎現象を起し、産業間の所得格差や農林業後継者問題など農政に大きな課題を与えています。こうした中で、現在住んでいる弘川町の若い農業青年は、どんな意識や要求をもっているか、その対策はどうすべきか、山村振興調査会診断の結果をもとに農林業青年について考えてみたいと思います。

※県や町の資料による調査。  
 ※調査紙による在住青年の職業および生活の実態と意識調査。  
 ※青年との座談会および農家訪問。

### 就業継続の意志は

あすの弘川の農業を真剣に考える若者たち

現在の彼ら青年は、どの程度農業を継承するつもりか、その結果は、約七割(四七・六%)が「農業を継承する」と答えている。そのうち、農林業青年は、約八割(八〇・〇%)が「農業を継承する」と答えている。これは、非農林青年の約六割(六〇・〇%)に比べて、約二割(二〇・〇%)の差がある。

表3 在住青年の就業継続意志

	農林青年	非農林青年	全体
これからずっと喜んで	10(47.6)	24(43.6)	34(44.7)
仕方がないので	6(28.6)	5(9.1)	11(14.7)
どちらでもよい	2(9.5)	14(25.5)	16(21.1)
機会があれば転職を	2(9.5)	2(3.6)	4(5.3)
今すぐでも転職を	0	3(5.5)	3(3.9)
不明およびその他	1(4.8)	7(12.8)	8(10.4)
計	21(100.0)	55(100.0)	76(100.0)

表2 就業動機の種類

	農林青年	非農林青年
25%以上	・農業が好きだから (28.6)	・農業では安定しにくいと思ったので (29.1)
20%以上	・家の後継ぎをしようと思いい喜んで (23.8)	・農業では収入が少ないので (21.8) ・ほかの職についてみるのも人生勉強、社会勉強だと思ったので (21.8) ・農業以外の何かの職や技術身につけておきたいと思ったので (20.0)
15%以上	・農業が自分にむいていると思ったので (19.0) ・後継ぎのため仕方なく (19.0) ・親やまわりの人に進められて (19.0)	・農地が狭かったので (18.2) ・農業のやり方をあまり知らなかった (16.4)
10%以上	・農業は気楽な職業だから (14.3)	・毎月きまった現金収入がほしかった (14.5) ・農業は自分に向いていないと思ったので (12.7) ・まわりの人から、ほかの職につくようすすめられて (12.7) ・ほかの職の方に魅力があった (12.7) ・家の農業の後継ぎでなかった (10.9) ・別に理由や動機はない (10.9) ・たまたまよい就職口があった (10.9)
5%以上	・安定すると思ったので (9.5) ・食うだけは困らないので (9.5) ・農家に生まれた宿命だから (9.5) ・特別な理由はない (9.5)	・家が農家でなかった (9.1)
5%未満	・ほかに適当な職がなかった (4.8) ・農作業が大変つらい (4.8) ・農業がきらいだ (4.8) ・友だちがほかに就職するので (1.8) ・嫁のきかないから (1.8) ・体力や健康に自信がない (1.8)	

注 ( ) は%を表す。

農林業では収入が少ない、農地が狭い、農業のやり方を知らない、など、農林業青年の就業動機は、非農林青年と比べて、安定志向や収入志向が強い傾向にある。一方、農林業青年の中には、農業が好きだから、家の後継ぎをしようと思いい喜んで、など、農業への情熱あつく、生きる方向を模索している青年も少なくない。

### 経営上の悩み

農林業青年の経営上の悩みは、非農林青年と比べて、農産物価格の不安定、農林地の狭さ、農林業の将来性、見通し、農林業についての知識、技術の不足、人手不足、労働過重、収入をふやせないうこと、経営資金の不足、天災をうけやすい、経営方針が立たない、休養・娯楽の時間がない、など、農林業青年の悩みは、非農林青年と比べて、経営上の悩みが強い傾向にある。

表4 農林業経営上の悩み

	農林青年	第二種兼業青年	全体
農林産物価格の不安定	13(30.9)	16(26.7)	29(28.4)
農林地が狭いこと	8(19.0)	11(18.3)	19(18.6)
農林業の将来性、見通し	8(19.0)	10(16.7)	18(17.6)
農林業についての知識、技術の不足	5(11.9)	5(8.3)	10(9.8)
人手不足、労働過重	1(2.3)	6(10.0)	7(6.9)
収入をふやせないうこと	2(9.5)	4(6.7)	6(5.9)
経営資金の不足	3(7.1)	1(1.7)	4(3.9)
天災をうけやすい	1(2.3)	3(5.0)	4(3.9)
経営方針が立たない	1(2.3)	1(1.7)	2(1.9)
休養・娯楽の時間がない	0	3(5.0)	3(2.9)
計	42(100.0)	60(100.0)	102(100.0)

注 各人に2つずつ選ばせた結果である。

### 指導機関のあり方

農林業青年の就業動機や経営上の悩みを踏まえ、指導機関のあり方を考える必要がある。農林業青年の就業動機や経営上の悩みを踏まえ、指導機関のあり方を考える必要がある。

### 政策についての要望

農協、森林組合に対して、組合員のための組合に、農産物の販売、加工、貯蔵、運搬、など、農産物の流通を促進する政策を要望している。また、農林業青年の就業動機や経営上の悩みを踏まえ、指導機関のあり方を考える必要がある。

### 赤十字運動にご協力

日本赤十字社は、世界の国々と共に、災害救助や福祉保健など幅広い活動を行っております。五月はその赤十字の運動期間です。この活動は、人間愛に燃える人達が社員となって納める社資と一般募金によってまかなわれています。未加入の家庭は、ぜひ加入され、また募金に力をお願いたします。(生活福祉課)

### 銃砲の検査実施

銃砲のいっせい検査を次により実施いたします。銃砲所持者は必ず検査を受けて下さい。  
 日時 六月三日(火) 午後二時から午後四時まで  
 場所 弘川町公民館 (公安委員会)

### 妊婦健康相談

とき 六月十一日 十三時―十五時  
 場所 弘川町公民館 (生活福祉課)

### 乳児健康相談

とき 六月十九日 十三時―十五時  
 場所 弘川町公民館 (生活福祉課)

### 胃ガン検診の申込み

三十五才以上の人で胃ガン検診を受けたい人は、五月二十七日まで各部落長へ申込んで下さい。  
 料金 五〇〇円 (生活福祉課)

## 広報メモ

